

東北応援ツアー 福島に参加して思ったこと

伊藤 めぐみ (1998・産社)

今回、この企画をきっかけに、はじめて福島を訪れました。

報道ではよく耳にするこの地が、現在、実際どんな様子なのか、正直少し不安でした。

行ってみると、ごく普通の町、普通の人々の暮らしがそこにありました。でも、話を聞いてみると、皆、心に傷を負っていることが分かります。だからなのか、とてもあたたかい方が多いという印象を受けました。一人ひとりが目に見えないものと戦って傷ついているけれど、自分よりもっと大変な人がいると考えると自分の辛さを口に出せないそうです。辛い思いをしているからこそ、人との出会いや絆を大切にしていることが感じられます。現地の方々も、同じ日本人として同じ地球人として、皆でつながっていきたいという意識を持っているように感じました。このような意識をよりたくさんの方が持つことが大切なのではないでしょうか。

今回のツアーをきっかけに、少なくとも私の中には、私と福島をつなぐ一本の糸ができたと思います。その糸は、京都や滋賀など、自分が言ったことのある場所や大切な友がいる場所にいつもつながっています。その糸を増やしていく、そのつながりを維持することが大切なのだと思います。

復興支援といっても、自分は何をしたらよいか分からず、被災した方に何と声をかけたらいいのかも分かりませんでした。今回、ただ福島に行っただけで喜んでくれる人がいてびっくりしました。大層なことをしなくても支援になるということをもっとたくさんの人に知ってもらいたいです。このツアーで、以前よりもっと、他人事ではないという意識が強くなりました。一人ひとり皆が被災地とつながりを持って、日本中・世界中が一体となってそれぞれ助け合っていけることを目指せると良いと思います。

この機会を与えてくださったことに感謝します。ありがとうございました。